

表7 脳卒中うつスケール(JSS-D)

(日本脳卒中学会Stroke Scale委員会)

1. 気分

<input type="checkbox"/> A=-0.98
<input type="checkbox"/> B=-0.54
<input type="checkbox"/> C= 1.52

- A. 気分爽快やうつ気分はなく、普通にみえる
 B. 気分がふさいでいる様子があ
 C. 気分が沈む、寂しい、悲しいという明らかな訴えや素ぶりがある

2. 罪責感、絶望感、悲観的思考、自殺念慮

<input type="checkbox"/> A=-2.32
<input type="checkbox"/> B=-0.88
<input type="checkbox"/> C= 3.19

- A. 特に自分を責める気持ちはなく、将来に希望がある
 B. 自分は価値がない人間だと思
 C. 明らかな罪責感をもつ(過去に過ちを犯した、罪深い行為をしたなどと考えない)死にたいという気持ちを持つ

3. 日常生活(仕事、趣味、娯楽)への興味、楽しみ

<input type="checkbox"/> A=-1.17
<input type="checkbox"/> B=-0.94
<input type="checkbox"/> C= 2.11

- A. 仕事ないしは趣味・娯楽に對して、生き生きと取り組める
 B. 仕事ないしは趣味・娯楽に對して、気乗りがしない
 C. 仕事ないしは趣味・娯楽に對して完全に興味を喪失し、活動に取り組まない

4. 精神運動抑制または思考制止

<input type="checkbox"/> A=-0.84
<input type="checkbox"/> B=-0.53
<input type="checkbox"/> C= 1.37

- A. 十分な活気があり自発的な会話や活動が普通にできる
 B. やや生気や意欲に欠け、集中力も鈍い
 C. 全く無気力で、ぼんやりしている

5. 不安・焦燥

<input type="checkbox"/> A=-1.11
<input type="checkbox"/> B=-0.64
<input type="checkbox"/> C= 1.75

- A. よく眠れる
 B. 不安感やいらら感がある
 C. いらら感をコントロールできず、落ち着かない動作・行動がしばしばみられる

6. 睡眠障害

<input type="checkbox"/> A=-1.83
<input type="checkbox"/> B=-0.64
<input type="checkbox"/> C= 2.47

- A. よく眠れる
 B. よく眠れない(入眠障害、熟睡障害ないしは早朝覚醒)
 C. 夜間の不眠(せん妄をふくむ)がある
※付加情報：Bを選択した場合、以下のうち認められるものに入眠障害() 途中覚醒() 早朝覚醒()

7. 表情

<input type="checkbox"/> A=-0.52
<input type="checkbox"/> B=-0.79
<input type="checkbox"/> C= 1.31

- A. 表情は豊かで、明る
 B. 表情が乏しく、暗
 C. 不適切な感情表現(情動失禁など)がある

TOTAL =
 CONSTANT +9.50
 TOTAL SCORE =

(日本脳卒中学会Stroke Scale委員会)

表8 脳卒中感情障害(うつ・情動障害)スケール同時評価表(JSS-DE)

(日本脳卒中学会Stroke Scale委員会)

1. 気分

<input type="checkbox"/> A=-0.98
<input type="checkbox"/> B=-0.54
<input type="checkbox"/> C= 1.52

- A. 気分爽快やうつ気分はなく、普通にみえる
 B. 気分がふさいでいる様子があ
 C. 気分が沈む、寂しい、悲しいという明らかな訴えや素ぶりがある

2. 罪責感、絶望感、悲観的思考、自殺念慮

<input type="checkbox"/> A=-2.32
<input type="checkbox"/> B=-0.88
<input type="checkbox"/> C= 3.19

- A. 特に自分を責める気持ちはなく、将来に希望がある
 B. 自分は価値がない人間だと思
 C. 明らかな罪責感をもつ(過去に過ちを犯した、罪深い行為をしたなどと考えない)死にたいという気持ちを持つ

3. 日常生活(仕事、趣味、娯楽)への興味、楽しみ
 A. 仕事ないしは趣味・娯楽に對して、生き生きと取り組める
 B. 仕事ないしは趣味・娯楽に對して、気乗りがしない
 C. 仕事ないしは趣味・娯楽に對して完全に興味を喪失し、活動に取り組まない

4. 精神運動抑制または思考制止
 A. 十分な活気があり自発的な会話や活動が普通にできる
 B. やや生気や意欲に欠け、集中力も鈍い
 C. 全く無気力で、ぼんやりしている

5. 不安・焦燥
 A. 不安感やいらら感はない
 B. 不安感やいらら感がある
 C. いらら感をコントロールできず、落ち着かない動作・行動がしばしばみられる

6. 睡眠障害
 A. よく眠れる
 B. よく眠れない(入眠障害、熟睡障害ないしは早朝覚醒)
 C. 夜間の不眠(せん妄をふくむ)がある
※付加情報：Bを選択した場合、以下のうち認められるものに入眠障害() 途中覚醒() 早朝覚醒()

7. 表情
 A. 表情は豊かで、明る
 B. 表情が乏しく、暗
 C. 不適切な感情表現(情動失禁など)がある

8. 日常生活動作・行動(入浴・着替え・洗面・喫食など)に関する自発性と意欲の低下
 A. 自発的に活動し、通常の意欲がある
 B. 日常生活動作にゆきかけが必要で、意欲に欠ける
 C. 働きかけても活動せず、まったく無気力である

9. 脱抑制行動(易怒性、性的逸脱行動)
 A. 感情や興奮な行動を抑制できる
 B. 悪態や乱暴な言葉、または軽微的な性的な行動が見られる(エロチックな発言や体たさわるなど)
 C. 異常で明らかかな怒りや逸脱行為が見られる(物を投げつける、つねる、たたき、ひっかく、蹴る、噛みつく、つばを吐く、叫ぶ、服をかって脱ぐなどの行動)

10. 病態・治療に対する対応
 A. 自分の身体の状態を認識し、その治療に前向きである
 B. 自分の身体の状態を認識しているが、治療への積極性がない
 C. 自分の身体の状態を認識していない

11. 対人関係
 A. 家族やスタッフとの交流は良好である
 B. 家族やスタッフとのかわりに消極的で、関心が薄い
 C. 周囲との交流はほとんどなく、人との接触に拒否的である

脳卒中感情障害スケール

TOTAL = <input type="text"/>
CONSTANT +14.00
TOTAL SCORE = <input type="text"/>

脳卒中うつスケール

TOTAL = <input type="text"/>
CONSTANT +9.50
TOTAL SCORE = <input type="text"/>

表9 modified Rankin Scale (mRS)

- Grade 0: 全く症状なし
- Grade 1: 症状はあるが特に問題となる障害なし (通常の日常生活および活動は可能)
- Grade 2: 軽度の障害 (以前の活動はできないが、介助なしに自分のことのできる)
- Grade 3: 中等度の障害 (何らかの介助を必要とするが、介助なしに歩行可能)
- Grade 4: 比較的高度の障害 (介助なしに歩行や日常生活を行うことが困難)
- Grade 5: 高度の障害 (寝たきり、失禁、常に看護や注意が必要)
- Grade 6: 死亡

van Swieten JC, Koudstaal PJ, Visser MC, Schouten HJ, van Gijn J. Interobserver agreement for the assessment of handicap in stroke patients. Stroke 1988; 19: 624-627

表10 Stroke Impairment Assessment Set (SIAS)

運動機能	2: 軽度の障害	3: 中等度の障害	4: 高度の障害
1) 上肢近位 (knee-mouth test) 座位において患肢の上部を対側膝(大腿)より牽き上げ、手を肩より上げて、この際、肩は90°まで外転させる。そして膝上まで戻す。肩、肘、前腕に拘縮が存在する場合は可動域内の運動をもつて課題可能と判断する。	0: 全く動かない。 1: 肩のわずかな動きがあるが手首が乳頭に届かない。 2: 肩肘の共同運動があるが手首が乳頭に届かない。 3: 課題可能。中等度のあるいは著明な動きがある。 4: 課題可能。軽度の動きがある。 5: 健側と変わらず、正常。	0: 全く動かない。 1: 肩のわずかな動きがあるが手首が乳頭に届かない。 2: 肩肘の共同運動があるが手首が乳頭に届かない。 3: 課題可能。中等度のあるいは著明な動きがある。 4: 課題可能。軽度の動きがある。 5: 健側と変わらず、正常。	0: 全く動かない。 1: 肩のわずかな動きがあるが手首が乳頭に届かない。 2: 肩肘の共同運動があるが手首が乳頭に届かない。 3: 課題可能。中等度のあるいは著明な動きがある。 4: 課題可能。軽度の動きがある。 5: 健側と変わらず、正常。
2) 上肢遠位 (finger-function test) 手指の分離運動を、母指-小指の順に屈曲、小指-母指の順に伸展することにより行う。	0: 全く動かない。 1: 1A: わずかな動きがある。または屈曲伸展可能。 1B: 手指伸展が可能。 1C: 分離運動が一掃可能。 2: 手指の分離運動可能なも屈曲伸展が不十分である。 3: 課題可能(全指の分離運動が十分な屈曲伸展を伴って可能)。中等度のあるいは著明な動きがある。 4: 課題可能。軽度の動きがある。 5: 健側と変わらず、正常。	0: 全く動かない。 1: 1A: わずかな動きがあるが足部は床から離れない。 2: 足部の伸屈運動あり、足部は床より離れるが十分ではない。 3-5: knee-mouth testの定義と同一。	0: 全く動かない。 1: 1A: わずかな動きがあるが足部は床から離れない。 2: 足部の伸屈運動あり、足部は床より離れるが十分ではない。 3-5: knee-mouth testの定義と同一。
3) 課題可能。中等度のあるいは著明な動きがある。 4) 課題可能。軽度の動きがある。 5) 健側と変わらず、正常。	0: 全く動かない。 1: 1A: わずかな動きがあるが足部は床から離れない。 2: 足部の伸屈運動あり、足部は床より離れるが十分ではない。 3-5: knee-mouth testの定義と同一。	0: 全く動かない。 1: 1A: わずかな動きがあるが足部は床から離れない。 2: 足部の伸屈運動あり、足部は床より離れるが十分ではない。 3-5: knee-mouth testの定義と同一。	0: 全く動かない。 1: 1A: わずかな動きがあるが足部は床から離れない。 2: 足部の伸屈運動あり、足部は床より離れるが十分ではない。 3-5: knee-mouth testの定義と同一。

- 8) 上肢屈反射 U/E DTR (biceps or triceps)
0: bicepsあるいはtriceps反射が著明に亢進している。あるいは容易にclonus(肘、手関節)が誘発される。
1A: bicepsあるいはtriceps反射が中等度(はっきり)に亢進している。
1B: bicepsあるいはtriceps反射がほぼ消失している。
2: bicepsあるいはtriceps反射が程度(わずかに)亢進。
3: bicepsあるいはtriceps反射も正常。健側と対称的。
- 9) 下肢反射 L/E DTR (PTR or ATR)
0, 1B, 2, 3: biceps, tricepsをPTR, ATRと読み替える。
1: 1A: PTRあるいはATR反射が中等度(はっきり)に亢進している。unsustained clonusを認める。

〈感覚〉

- 10) 上肢触覚 U/E light touch (手触)
0: 強い皮刺刺激もわからない。
1: 軽度あるいは中等度低下。
2: 軽度低下、あるいは主観的低下、または異常感覚あり。
3: 正常。
- 11) 下肢触覚 L/E light touch (足触)
0~3: 上肢触覚の定義と同一。
- 12) 上肢位置覚 U/E position (母指or示指) 指を他動的に運動させる。
1: 全可動域の動きもわからない。
2: ROMの1/3以上の動きなら方向がわかる。
3: ROMの1/2以上の動きなら方向がわかる。
- 13) 下肢位置覚 L/E position (母指) 趾を他動的に運動させる。
0: 全可動域の動きもわからない。
1: 全可動域の動きもわからない。
2: ROMの1/3以上の動きなら方向がわかる。
3: ROMの1/2以上の動きなら方向がわかる。

〈関節可動域、疼痛〉

- 14) 上肢関節可動域 U/E ROM 他動的に関節を外転を行う。
0: 60°以下。
1: 90°以下。
2: 150°以下。
3: 150°以上。
- 15) 下肢関節可動域 L/E ROM 膝伸展位にて他動的に関節屈曲を行う。
0: 10°以下。
1: 0°以下。
2: 10°以下。
3: 10°以上。
- 16) 疼痛 pain 膝平中に由来する疼痛の評価を行う。既往としてこの筋群(腕屈筋、内転筋(肘石など)疼痛は含まない。また過度でない拘縮伸長時の痛みも含まない。
0: 疼痛を妨げるほどの著しい疼痛。

- 1: 中等度の疼痛。
2: 加療を要しない程度の軽度の疼痛。
3: 疼痛の問題がない。

〈体幹機能〉

- 17) 垂直性 veritcality test
0: 座位にて構造的に矯正されない。
1: 静的座位にて構造的に矯正されない。指示に従って構造的に矯正される(傾度15°以上)があるが、指示に従ってほぼ垂直位に修正・維持可能である。
3: 静的座位は正常。
- 18) 腹筋 abdominal MMT 車椅子または椅子に座り、背を傾け、足を伸ばし、体を45度後方へ傾け、背もたれによりかかる。大腿部が水平になるように検査者が押さえ、体幹を垂直位まで起き上がらせる。検査者が体幹を加える場合には、胸骨上部を押さえること。
0: 垂直位まで起き上がれない。
1: 抵抗を加えなければ起き上がれる。
2: 軽度の抵抗に抗して起き上がれる。
3: 強い抵抗に抗して起き上がれる。

〈高次脳機能〉

- 19) 視空間認知 visuo-spatial deficit 50cmのテープを距離約50cmに提示し、中央を健側指で示させる。2回行い、中央よりのすれの大きい指を採用する。
0: 15cm以上。
1: 5cm以上。
2: 3cm以上。
3: 3cm未満。
- 20) 言語 speech 言語症に關して評価する。構音障害はこの項目には含まない。
0: 全失語症。まったくコミュニケーションがとれない。
1: 1A: 重度感音性失語症(重度感音性失語症も含む)。
1B: 重度運動性失語症。
2: 軽度失語症。
3: 失語症なし。

〈握力機能〉

- 21) 握力 grip strength 座位で握力計の握り紐を約5cmにして計測する。握力の具体的kg数を記載すること。参考として。
0: 握力 0 kg。
1: 握力 10 kg以下。
2: 握力 10~20 kg。
3: 握力 25 kg以上。
- 22) 健側大腕四頭筋力 quadriceps MMT 座位における健側伸屈筋力評価を行う。
0: 握力に匹敵しない。
1: 中等度以下に筋力低下。
2: わずかな筋力低下。
3: 正常。

表11 Brunnstromの運動検査による回復段階

上 肢	<p>stage I : 弛緩性麻痺 stage II : 上肢のおよやかな随意運動 stage III : 座位で肩・肘の同時屈曲、同時伸 展 stage IV : 腰の後ろへ手をつける。肘を伸展 させて上肢を前方水平へ挙上。肘 90°屈曲位での前腕回内・回外 stage V : 肘を伸展させて上肢を構水平へ挙 上、また前方面上へ挙上、肘伸展 位での前腕回内・回外 stage VI : 各関節の分離運動</p>
手 指	<p>stage I : 弛緩性麻痺 stage II : 自動的屈指屈曲わずかに可能 stage III : 全指同時握り、釣形握り(握りだけ) 伸展は反射だけで、随意的な手指 伸展不能 stage IV : 袖つまみ(母指は離せない)少ない 範囲での半随意的な手指伸展 stage V : 対向つまみ、握握り、球握り、随 意的な手指伸展(範囲は一定せず) stage VI : 全種類の握り、全可動域の手指伸 展。すべての指の指の分離運動</p>
下 肢	<p>stage I : 弛緩性麻痺 stage II : 下肢のおよやかな随意運動 stage III : 座位、立位での膝・膝・足の同時 屈曲 stage IV : 座位で足を床の後方へすべらせて、 膝を90°屈曲。踵を床から離さず に随意的に足関節背屈 stage V : 立位で股伸展位、またはそれに近 い座位、免臂した状態で膝屈曲分 離運動。立位、膝伸展位で、足を 少し前に踏み出して足関節背屈分 離運動 stage VI : 立位で、背盤の挙上による範囲を 超えた股外転。座位で、内・外翻 ハムストリングスの相反的活動 と、結果として足内反と外反を伴 う膝を中心とした下腿の内・外旋</p>

(Brunnstrom S. Motor testing procedures in hemiplegia : based on sequential recovery stages. Phys Ther 1965 ; 46 : 357-375)
(石川順、脳卒中後遺症の評価スケール、第2版(1999) : 4 : 151-159)

表12 Barthel Index およびその判定基準

食事	Independent	with help	dependent
1. 食事	10	5	0
2. 移動	15	10~5	0
3. 整容	5	0	0
4. トイレ	10	5	0
5. 入浴	5	0	0
6. 歩行 (車椅子)	15	10	0
7. 階段昇降	5	0	0
8. 着替え	10	5	0
9. 排便	10	5	0
10. 排尿 () 点	10	5	0

食事
10 : 自立、自助具などの装着可。標準的時間内に食
べ終える
5 : 部分介助(例えば、おかずを切って細かくしてもらう)
0 : 全介助

車椅子からベッドへの移乗
15 : 自立、車椅子のアレーキヤやフットレストの操作
も含む(歩行自立も含む)
10 : 軽度の部分介助または監視を要す
5 : 転ぶことが可能であるが、ほぼ全介助
0 : 全介助または不可能

整容
5 : 自立(洗面、髪整、歯磨き、装刺り)
0 : 部分介助または全介助

トイレ動作
10 : 自立、衣服の操作、後始末を含む。ポータブル
トイレなどを使用している場合はその状況も含む
5 : 部分介助。体を支える、衣服、後始末に介助を要する
0 : 全介助または不可能

入浴
5 : 自立
0 : 部分介助または全介助

歩行
15 : 45m以上歩行。補装具(車椅子、歩行器は除く)の
使用の有無は問わない
10 : 45m以上の介助歩行。歩行器使用を含む
5 : 歩行不能の場合、車椅子にて45m以上の操作可能
0 : 上記以外

階段昇降
10 : 自立(てすりや杖を使用してもよい)
5 : 介助または監視を要する
0 : 不能

着替え
10 : 自立。靴、ファスナー、装具の着脱を含む
0 : 上記以外

排便コントロール
10 : 失禁なし。浚腸、尿管の取扱いに介助を要
する者も含む
5 : 時に失禁あり
0 : 上記以外

排尿コントロール
10 : 失禁なし。尿管の取扱いも可能
5 : 時に失禁あり。尿管の取扱いに介助を要する者も含む
0 : 上記以外

(Mahoney FI, Barthel DW. Functional evaluation: the Barthel Index. Md St
Med J 1965 ; 14 : 61-65)
(石川順、脳卒中後遺症の評価スケール、第2版(1999) : 4 : 151-159)